



“支えられ、生かされて”

株式会社 ドゥ・ワン・ソーイング
専務取締役管理室長

土井玲子



OMA

女性経営者シリーズ

株式会社ドゥ・ワン・ソーイングはメンズのシャツを製造している会社である。創業は昭和27年、もうすぐ60周年を迎える。夫の父が焼け跡のミシンひとつからこつこつと技術を身に付けて基礎を築いた。

私は結婚後、夫の家業のシャツ屋を手伝う事になったが、当時、若い嫁が偉そう？に、経営者の一員の顔をしてものを言うものだから年配のパートさんから、あの人に言われる事は無いと手厳しいお叱りを受けた事もある。別に偉そうだったとは今も思わないけれど、生意気な感じを与えたのは事実だったので。20代だったので、早く貫禄のある中年世代に成りたいと真剣に思っていた。銀行勤めの経験があり、給与計算やお金を扱うのは慣れていて。父親も中小企業の管理職を辞めて起業した経営者だったし、身近で父を見ながら仕事をしていて私には経営者の血が流れていて、会社を発展させたい気持ちは強く、経営者としてのエンドレスな仕事は苦にはならなかった。会社が大阪だけで営業し生産工場だった頃には、TQC活動を導入して仕事現場の人達とも成果発表大会などで楽しく交流する事が出来、私の仕事は人係りだと思った。

あれから30年近く経ち、まぎれも無い中年になった私の仕事の仕方はどうだといえるのだろうか。会社のことは誰よりも（社長の次だとして）考えているつもり。だが、メンズのファッションについて熱心に勉強したわけでもなく、製造の技術を身につけたわけでもない。去年、専務取締役に就任した際にもっと専務に相応しい役割を果たすべきだと考えた。が、余り変わっていないので実は反省している。

大阪職業能力開発協会で講習を受けた事がきっかけで、岡山工場のリーダーの11名に勉強会を実施した。岡山工場は操業20年になるが、殆どが職人の集団なこともあり、縦横の連絡や相談がスムーズでなく皆真面目なのに成果が上がりにくい。半

年4回で終了した勉強会では大きな声で挨拶をする事、人の目を見て話をする事など、コミュニケーションの基本の基本から学んだ。最終日、全員の顔が、眼が、しっかりと先生に向いていることが嬉しかった。受講者一人ひとりの感想を聞いている内に、工場設立のために大きなお腹で岡山に何度も出張し2人目の子を早産した事や、仕事に追われても成果が上がらず資金繰りに苦しんだこと、色々と思い出した。みんなの素直な気付きを聞きながら、経営者だからと言って何ら特別な能力が有った訳では無い私達の下で真面目に働いてくれている事が、心から有り難く思えた。

身近な沢山の人に支えられている事に感激し、感謝し、素直な気持ちで喜ぶ事が出来た。

6月に長期の休暇を取り81歳の母と湯治に行った。体をちくちくと針で刺すような痛みの強い酸性の温泉と、地熱が50度近くもある岩盤での岩盤浴を繰り返し、朝夕規則正しい食事とたっぷりの睡眠。私にとっては久しぶりに仕事抜きの健全な生活。だが、宿泊客の多くは医者から見放された癌患者や病気を持った人達。死の苦しみと向き合っている人達の話聞き逆に生きるエネルギーをもらう貴重な経験をした。当たり前のように生かされている事の有難さに気付き、命の続く限り毎日を大事に、そして今まで以上に前向きに真剣に生きていこうと心から思った。

プロフィール

昭和55年 土井縫工所入社

昭和57年 法人改組

(株式会社ドゥ・ワン・ソーイング)

平成2年 岡山工場 設立

事業内容：メンズシャツの製造卸

メンズシャツWEB販売